



コツコツ とことん

大仙市立太田中学校
令和3年5月26日
NO. 23



うららかに たくましく ～耕し 萌えたち みのらせ さきみだる～

県民防災の日

昭和58年（1983年）5月26日11時59分57秒、秋田・青森県境沖約100kmを震源として、秋田市では震度5を記録するなどの強い地震（日本海中部沖地震）が発生し、県内で83名の死者が出るなどの大きな被害をもたらしました。この被害を忘れず、「遠い過去の記憶」として葬り去らないためにも、県民総ぐるみで日頃から防災対策に努めるために、この日を「県民防災の日」と定めています。

日本海中部沖地震を経験していない、知らない人は年々多くなっています。しかし、薄れてはきていますが、私たちは、東日本大震災を記憶しています。近年では熊本地震や北海道胆振東部地震のような大きな地震がありました。最近では宮城県沖、福島県沖を始めとして全国至る所で地震が発生しています。大きな地震が秋田にも起こったら、と考えると、また、数年前の豪雨水害を考えると、私たちは防災に無関心ではられません。



本校は、10年以上続く大槌学園との交流を特色ある教育活動の一つに据え、防災学習にも力を入れている学校です。県民防災の日を迎えるに当たり、学級等で防災への意欲付け、関心の高揚の指導しました。そして、5月25日（火）4校時、大曲仙北広域消防東分署の方々に講師を迎え、「災害時の避難経路を確認し、安全な避難行動をとることができるようにするとともに防災意識の高揚を図る」「災害時の教員の役割、適切な指示・誘導等の確認」をねらいとして、大仙市が震度5強の地震にみまわれ、その影響で職員室から火災が発生したことを想定した避難訓練を実施しました。



避難訓練を終えて、消防署の方からは、「目標としていた4分以内の避難ができていた。災

害時は、何が起きているかをしっかり把握することが自分を落ち着かせることにつながる。そして、危険から遠ざかる行動をとること大切であり、そのために『お（さない）・か（けない）・し（やべらない）・も（どらない）』が大事になる。無事避難できた（自助）人は、人を助ける（共助）ことも考えてほしい。災害はいつ起きるか分からないので定期的な訓練を続けてほしい。その訓練に、今日のように、まじめに真剣に取り組むことが、命を守る第一歩となる。」とのお褒めと講評と指導をいただきました。また、子どもたちからは次のような感想発表がありました。「避難経路、2次被害時の行動について確認し、指示に従って行動できた。この訓練・経験を災害時の自分の命を守る行動に生かしたい。」

訓練後には、体験学習として煙道体験を行い、火災時の煙の怖さも学びました。



訓練を一度行っただけでは、適切な安全行動、心構えはしっかり身に付かないものです。勉強でも部活動でも同じことが言えますが、繰り返しの取組が安全意識の保持高揚、安全行動の定着、“もしもの時”の備えにつながります。そのため、小学校から何度も繰り返している避難訓練です。この後も毎月のように抜き打ちでシェイクアウト訓練を実施し、防災への実践力向上を図りたいと考えています。

これまでに参加した防災教育の研修会の中で、「子どもたちや教師が学校に居る時間は年間の中で22%～25%位である。学校にいない時間の方が断然多い。子どもも教師も学校に居ない時間に地震が起きることが多い。そのときどう対処するかを決めておくことが大切である。」という話が強く印象に残っています。地震に限らず、その他の天災や火災、交通事故、不審者などからも自分で自分の身を守らなければいけません。訓練に加え、「**自分の命は自分で守る**」そんな**心構えと準備**を常におこななければなりませんし、学校外でのもしもの時の対処について、家族の約束事（携帯が使えない場合の連絡方法、家族が集合する場所、避難所等々）を確認しておくことも大切になります。